

令和4年度 長崎県立五島南高等学校 学校評価表

学校教育目標	教育基本法、学校教育法、長崎県教育方針等に則り、全教職員・生徒が一体となって、明るく活気に満ちた学校づくりに邁進し、一人ひとりの優れた個性や能力の伸長を図りながら、誠実な心を持ち、ひたむきに努力し、積極的な行動をとり得る心身ともに健全で、調和のとれた豊かな人物の育成に努める。
基本理念	(1) 一人ひとりが主役の学校 (生徒一人ひとりが主役となり、自己肯定感を高めることができる学校) (2) 進路実現に向けて努力する学校 (授業改善に努め、進路実現に向けて、生徒も教職員も懸命に努力する学校) (3) 保護者・地域の信頼と期待に応える学校 (保護者・地域から信頼され、社会に貢献できる人材育成に努める学校)
前年度の成果と課題	(1) 15年連続で3年生全員の進路先を決定することができた。コロナ禍ではあったが、進路ガイダンスセミナーをWebで実施したり、事業所説明会の代替として、校内の職員による企業説明会を実施したりするなど、工夫をした指導で進路選択に対する動機付けを強めた。支援が必要な生徒の校外での就業体験を実施し、就職につなげることができた。 (2) 離島のため、島外就職を希望する生徒が、島外で研修を受ける機会が少ない。 (3) 教育センター等外部機関と連携することで、多面的な教育を実施できており、次年度も継続したい。 (4) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援補助員の配置により、個々の生徒に手厚い教育を提供することができた。 (5) 経済的負担の少ない進学について、さらなる情報収集を要する。
努力目標	(1) 他者への思いやり、帰属(集団の一員)意識の醸成を図り、良好な人間関係を築き、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育む。 (2) 自己管理と基本的生活習慣の確立をめざし、学校生活の充実を図る。 (3) 授業におけるICT機器の積極的な活用を推進し、基礎学力の定着と向上をめざす。 (4) 生徒一人ひとりに対する進路指導の充実を図り、進路実現100%をめざす。 (5) 組織的な教育相談体制の充実と特別支援教育の推進を図り、生徒一人ひとりの生きる力を育む。 (6) 学校行事、生徒会活動、部活動等の充実と活性化を図り、生徒の自主性や主体性を育む。 (7) 互いの人権感覚を育み、生徒及び教職員の健康と安全管理の徹底を図る。

※評価の値は、4段階評価の平均値

【評価分野】1 学校経営						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R03	R04	
学校教育目標	教育目標の明確化	学校の実態に即した経営方針を学校内外に明確に示し、教職員間の相互理解に基づく教育活動を行う。	各分掌・学年、地域との連携を密にし、校務運営の円滑化並びに学校行事の充実を推進する。	3.6	3.7	部会や学年会が充実し、校務運営は円滑であった。学校行事は可能な範囲で徐々にコロナ禍前の状況に戻すことができ、目標を達成することができた。  生徒指導上の問題行動が複数発生したが、保護者、地域と連携し生徒の指導につなげることができた。今後未然防止につなげたい。
			保護者・地域との緊密な連携を図り、問題行動を未然に防ぐ。	3.4	3.4	

【評価分野】 2 教育活動

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R03	R04	
教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の実施	学習指導要領の主旨を生かした特色のある教育課程を編成する。	新学習指導要領の施行にあたり、生徒の実態に即した教務内規・教育課程・評価方法の研究を促進し、ICTの活用をはじめとした教員の授業力向上や環境整備を図る。	3.4	3.6	1学年において新教育課程及び評価を効果的に実施することができた。今後生徒の実態に合わせたさらなる改善が課題である。
		指導方法の創意工夫に取り組む。	進路検討会・学力検討会を実施し、検討内容を授業に反映させる。	3.6	4.0	習熟度別授業の展開により、授業で充実感を感じる生徒が増えている。
教科指導	わかる授業の展開とその実践	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。	朝ドリル・マナトレの実施、補習・対外試験の企画、全職員による面接指導。	3.6	3.8	積極的に取り組む生徒が以前より増えている。
		生徒理解に基づき、全職員できめ細やかな生徒指導を行う。	学級担任・教科担当者との連携を密にしながら、各学年・分掌の協力を得て情報を共有し、生徒の精神的自立への援助を行う。	3.6	3.9	情報の共有により適切な指導ができています。今後も継続して情報共有を行っていく。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全職員できめ細やかな生徒指導を行う。	不登校生徒及び不登校傾向のある生徒への適切な対応に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	3.0	3.2	早期対応を心がけておこなったが、長期の不登校生徒をゼロにすることはできなかった。
	社会性と規範意識の醸成		人権教育に関する意識を高め、学校全体で積極的に取り組む。	3.4	3.8	人権意識が低い生徒が増えつつある。継続的・日常的な指導が必要である。
	カウンセリングの充実		「いじめ」の未然防止早期発見に積極的に努める。	3.6	4.0	生徒の自主性を重視した「いじめ根絶宣言」を継続して実施していく。
進路指導	進路指導の充実	系統的計画的な進路指導を行う。	企業・上級学校の積極的な開拓及び情報収集と生徒・保護者へ情報提供する。	3.4	3.8	コロナ禍でも徐々に対面での進路ガイダンスセミナーや校内事業所説明会が実施できた。今後さらに効果的な方法を模索していきたい。
			校内外での進路ガイダンスセミナーを企画・運営する。	3.4	3.8	
			ふるさと教育の一環としてインターンシップや島内事業所説明会などを通して、若者の地元定着を促進する。	3.4	3.5	今年度末の就職者の半数が島内就職であり、地元定着に貢献している。今後もインターンシップ等充実させたい。

【評価分野】 3 組織運営						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R03	R04	
校内研修	研修体制の確立と実践	各種委員会活動の効率化と活性化を図る。	研修や月間報告を通して、生徒理解を深めるように努めた。	3.7	3.9	研修や委員会等の資料を事前に配付するなどして効率化を図っている。
現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	校内外の研修に積極的に参加した。	3.1	3.1	校内研修は継続的に実施できている。コロナ禍や生徒対応の多忙化により校外研修への参加が難しい状況があった。

【評価分野】 4 教育環境						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R03	R04	
学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を徹底し美化意識を高める。	生徒とともに清掃活動を行った。	3.8	3.9	地域清掃を全校生徒及び職員で実施している。あわせて離島留学生による海岸漂着物の調査・研究を実施している。
施設設備の管理		施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検の管理を適切に行う。	安全点検を定期的に行い、気になることについては情報の共有を図った。	3.7	3.6	毎日の掃除や大掃除等において点検を行っている。また毎月初めの職員点検を始めた。

【評価分野】 5 開かれた学校づくり						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R03	R04	
開かれた学校づくり	情報提供の充実	教育活動の情報を保護者、地域住民へ積極的に提供する。	学校行事への積極的な参加意識と協調性を高めるよう努力した。	3.8	3.6	ホームページの改善などに取り組むことができた。また部活動の活躍を紹介した横断幕を作成した。今後、ホームページ以外の発信方法も検討していきたい。

【総 評】

<p>評価の結果 (成果と課題)</p>	<p>① 学校経営全般について (平均3.6)          学校の基本理念を職員が良く理解し、コロナ禍ではあったが工夫を重ね、校務や学校行事を円滑に運営することができた。生徒指導については未然防止を目指した生徒対応が課題である。</p> <p>② 教育活動全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や学校生活、行事、部活動にいたるまで丁寧に生徒と寄り添った指導をすることができ、保護者・生徒にも一定の評価を受けた。</li> <li>・今年度は進路ガイダンスセミナーや企業説明会が対面で実施でき、進路選択に対する機運が高まり、3年生全員の進路先がすべて決定した。また、今年度も支援を必要とする生徒の自立活動や校外の就業体験を行い、進路決定につなげることができた。</li> <li>・保護者、生徒ともに家庭学習の取り組みについて不十分という回答であった。</li> <li>・中学校までに不登校や不登校傾向にある生徒の入学が増加傾向にある。本校のきめ細やかで丁寧な指導に期待されている結果だと思われる。今後も中学校や関係機関と連携を取りながら、適切な支援を実施する必要がある。</li> <li>・離島留学生の支援や指導については、本人、保護者の努力と、ホストファミリーや教職員の支援により改善が見られた生徒も多い。今後も、学校、保護者、ホストファミリーの相互理解と連携強化を図っていく必要がある。</li> <li>・全職員の共通理解のもと、年間を通して通級指導を行うことができ、受講者には一定の成果を上げている。今後も継続して組織的な指導を心がけていきたい。</li> <li>・カウンセラー室や保健室などに話に行く生徒も多くおり、居場所となっている。</li> <li>・今年度も、SC、SSW、特別支援教育支援補助員、離島留学専任職員の配置があり、医療・福祉など外部機関とも連携した支援や指導を行うことができた。</li> </ul>
<p>来年度の改善策</p>	<p>①今年度スタートした新学習指導要領の目標に合わせた授業を、より充実させるために校内研修を計画的に実施する必要がある。また、学年・教科で連携した課題を精選し、家庭学習の定着を図る。</p> <p>②高卒採用者の課題として、基礎学力の不足がある。習熟度別授業の取り組みやマナトレ、朝ドリルの効果を検証し、家庭学習時間を増やして基礎学力の定着を図る必要がある。</p> <p>③4年制大学を希望する生徒が増えている。個別・添削指導をより充実していくとともに、補習の見直しなどの必要が出てきている</p> <p>④不登校生徒または不登校傾向生徒に対する組織的な指導・支援体制をより一層充実していく必要がある。</p>

1 評価の実施期日・場所

- (1) 期日 令和5年2月16日(金)
- (2) 場所 長崎県立五島南高等学校 校長室

2 学校関係者評価委員

氏名	学校評議員との兼務の有無	出欠
佐々野安広	有	出席
出口 留美	有	出席
大窄 誠一	有	出席

3 学校関係者評価の内容

(1) 教育活動について

- 教職員の超過勤務について、保護者はどれだけ理解しているのか。勤務時間も知らないのではないかと。いつでも学校は対応してくれると考えているように思える。そのような考え方を変えていかないと働き方改革も前に進まないと思う。我々学校評議員など関わりながら使って考え方を変えていく必要がある。
- 校則について、日本は校則が厳しい傾向にあり、生徒の自由を制限している側面もあるかもしれない。ただし学校は現状の考え方でよいと思う。地域や生徒の実情に合わせて考えてよい。
- 離島留学の里親から個別に相談があり、SSWを通して学校に依頼したが、迅速に対応していただき感謝している。里親も非常に感謝していた。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

- 今後も一人ひとりを大切にしたい指導を継続していただきたい。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- 生徒のアンケートを見ると学校への信頼が見て取れる。今後も人としてどのような生き方をしていくのかという大切なポイントを重視して指導を行ってほしい。

(4) 学校運営の改善に向けて

- 生徒指導の件数が増えたことは気掛かりであるが、コロナ禍も関係していると思う。大人も子どももストレスを抱えているので適切に支援をしていただきたい。
- 今後も学校、保護者、地域が一体となって子ども達を育てていただきたい。

(5) その他

- コロナ禍による対応や生徒指導上や教育相談上の問題への対応などで、先生方は忙しくなっているが、南高の生徒のためによく頑張っていたらと思う。